

文化のなかの「しょうがい」

— 既存のイメージを超えて —

映画や文学には、しょうがいのある人々が度々描かれています。江戸川乱歩の『一寸法師』では、小人症の人物が悪の権化として登場し、映画『コーダ あいのうた』では、聴覚しょうがいしゃの家族の苦勞が現実的に描かれています。確かに、これらの描写は、時に差別的な印象を与えることもありますが、私たちの持つ「しょうがい」に対する想像力を広げてくれるようにも思えます。

この講座では、文学や映画におけるしょうがいに関する描写を、多様な視点から読み解いていきます。前半では、最近アメリカで盛んになってきている「障害学」に触れ、しょうがい描写の社会的解釈を試み、また、1930年代のアメリカ文学における「優生学」の影響にも言及します。後半では、山本周五郎の『季節のない街』や黒澤明の『どですかでん』などの作品に登場するしょうがい描写が、読者や社会に与える影響について、ワークショップ形式で共に考えていきます。

講師：寺沢 恕 (てらさわ・ひろ)

とき：6月18日・7月2日

ともに日曜日、

昼2時～4時

ところ：公民館 3階講座室

定員：24名（申込先着順）

申込：

6月7日（水）朝9時～

公民館

☎ 572-5141

主催：

公民館+

一橋大学言社研

一橋大学

院生講座

国立市内の一橋大学では、研究者をめざす大学院生たちが日々研究に励んでいます。そこで公民館が架け橋となり、若手研究者と地域社会との交流講座を続けてきました。最新の研究動向に触れるもよし！ 修行中の院生にアドバイスするもよし！ 院生が講師となって専門分野をご紹介します。